

年間授業計画

令和3年度 教科[数学] 科目[数学 I]

No. 1/1

クラス又は班	2年1組	2年2組	2年3組	2年4組	2年5組	単位数	使用教科書・教材
担当者						2	新数学 I (実教出版)

教科・科目のねらい(目標)	昨年度習得した高校数学の基礎基本となる、展開や因数分解、平方根などの定着させる 三角比や二次関数、二次不等式などの有用性を理解させる 苦手な生徒への手だてを十分に行いながらも、得意な生徒にも興味関心を高めさせる。
---------------	--

学期	(月)	指導項目	指導内容	予定数
1 学 期	4	三角比 三角比の性質	\sin, \cos, \tan 三角比の表 三角比の相互関係	5
	5	三角比の拡張 三角形の面積	拡張した三角比の定義、三角比の相互関係 三角形の面積	8
	6	正弦定理	正弦定理	8
	7	余弦定理	余弦定理	5
2 学 期	9	関数とグラフ 2次関数のグラフ	関数、 $y=f(x)$ 、関数の値、グラフ、傾き、切片、最大値、最小値 2次関数、放物線、軸、頂点、下に凸、上に凸、 $y=ax^2$ 、 $y=ax^2+q$ $y=a(x-p)^2$ 、 $y=a(x-p)^2+q$ 、平方完成	7
	10	2次関数の最大、最小	$y=a(x-p)^2+q$ の最大・最小	7
	11	2次関数と2次方程式	解の公式、接する、接点、	7
	12	2次関数と2次不等式	1次関数と1次不等式、2次関数と2次不等式	5
3 学 期	1	集合	集合、要素、属する、部分集合、空集合、共通部分、和集合、全体集合 補集合、	7
	2	命題と条件 逆・裏・対偶	命題、真、偽、必要条件、十分条件、必要十分条件、逆・裏・対偶	7
	3	データの分析	変量、平均値、階級値、最頻値、中央値、標準偏差	4
年間予定授業時間数				70

評価の観点・方法	日常の授業に取り組む姿勢や、プリントやノートの提出物の状況を十分に把握し評価に反映させていく。(平常点) 授業の出席状況なども評価に反映させていく。(平常点) 習熟度別に分けて指導していくが、到達度や習熟の状況を判断するため、共通の試験を行い、その状況を評価に反映させていく。(習得点) 平常点と習得点とで総合的に評価する。
----------	---

備考	年度当初の基礎学力検査を基に、下位10名前後をBクラスとし、残りをAクラスとする。ただし、学期ごとの成績により、科会でクラス替えが妥当と判断された場合は変更する。この計画はAクラスである。
----	--

年間授業計画

令和4年度 教科[数学] 科目[数学 I]

No. 1/1

クラス又は班	2年1組	2年2組	2年3組	2年4組	2年5組	単位数	使用教科書・教材
担当者						2	新数学 I (実教出版)

教科・科目のねらい(目標)	昨年度習得した高校数学の基礎基本となる、展開や因数分解、平方根などの定着させる 三角比や二次関数、二次不等式などの有用性を理解させる 苦手な生徒への手だてを十分に行いながらも、得意な生徒にも興味関心を高めさせる。
---------------	--

学期	(月)	指導項目	指導内容	予定数
1 学 期	4	三角比 三角比の性質	\sin, \cos, \tan 三角比の表 三角比の相互関係	5
	5	三角比の拡張 三角形の面積	拡張した三角比の定義、三角比の相互関係 三角形の面積	8
	6	正弦定理	正弦定理	8
	7	余弦定理	余弦定理	5
2 学 期	9	関数とグラフ 2次関数のグラフ	関数、 $y=f(x)$ 、関数の値、グラフ、傾き、切片、最大値、最小値 2次関数、放物線、軸、頂点、下に凸、上に凸、 $y=ax^2$ 、 $y=ax^2+q$ $y=a(x-p)^2$ 、 $y=a(x-p)^2+q$ 、平方完成	7
	10	2次関数の最大、最小	$y=a(x-p)^2+q$ の最大・最小	7
	11	2次関数と2次方程式	解の公式、接する、接点、	7
	12	2次関数と2次不等式	1次関数と1次不等式、2次関数と2次不等式	5
3 学 期	1	集合	集合、要素、属する、部分集合、空集合、共通部分、和集合、全体集合 補集合、	7
	2	命題と条件 逆・裏・対偶	命題、真、偽、必要条件、十分条件、必要十分条件、逆・裏・対偶	7
	3	データの分析	変量、平均値、階級値、最頻値、中央値、標準偏差	4
年間予定授業時間数				70

評価の観点・方法	日常の授業に取り組む姿勢や、プリントやノートの提出物の状況を十分に把握し評価に反映させていく。(平常点) 授業の出席状況なども評価に反映させていく。(平常点) 習熟度別に分けて指導していくが、到達度や習熟の状況を判断するため、共通の試験を行い、その状況を評価に反映させていく。(習得点) 平常点と習得点とで総合的に評価する。
----------	---

備考	年度当初の基礎学力検査を基に、下位10名前後をBクラスとし、残りをAクラスとする。ただし、学期ごとの成績により、科会でクラス替えが妥当と判断された場合は変更する。この計画はAクラスである。
----	--

年間授業計画

令和4年度 教科[数学] 科目[数学 I]

No. 1/1

クラス又は班	2年1組	2年2組	2年3組	2年4組	2年5組		単位数	使用教科書・教材
担当者							2	新数学 I (実教出版)

教科・科目のねらい(目標)	第1学年で学習した数学 I の内容を基礎に、一学年の時に学習していない分野の理解を深める。 具体的には、二次方程式、二次関数、三角比の応用として正弦定理や余弦定理を学習する。 方程式や関数の概念を理解し数理的な処理の大切さを実感させ、基本事項の定着を図る。
---------------	--

学期	(月)	指導項目	指導内容	予定数
1 学 期	4	三角比 三角比の性質	\sin, \cos, \tan 三角比の表 三角比の相互関係	5
	5	三角比の拡張 三角形の面積	拡張した三角比の定義、三角比の相互関係 三角形の面積	8
	6	正弦定理	正弦定理	8
	7	余弦定理	余弦定理	5
2 学 期	9	関数とグラフ 2次関数のグラフ	関数、 $y=f(x)$ 、関数の値、グラフ、傾き、切片、最大値、最小値 2次関数、放物線、軸、頂点、下に凸、上に凸、 $y=ax^2$ 、 $y=ax^2+q$ $y=a(x-p)^2$ 、 $y=a(x-p)^2+q$ 、平方完成	7
	10	2次関数の最大、最小	$y=a(x-p)^2+q$ の最大・最小	7
	11	2次関数と2次方程式	解の公式、接する、接点、	7
	12	2次関数と2次不等式	1次関数と1次不等式、2次関数と2次不等式	5
3 学 期	1	集合	集合、要素、属する、部分集合、空集合、共通部分、和集合、全体集合 補集合、	7
	2	命題と条件 逆・裏・対偶	命題、真、偽、必要条件、十分条件、必要十分条件、逆・裏・対偶	7
	3	データの分析	変量、平均値、階級値、最頻値、中央値、標準偏差	4
年間予定授業時間数				70

評価の観点・方法	日常の授業に取り組む姿勢や、プリントやノートの提出物の状況を十分に把握し評価に反映させていく。(平常点) 授業の出席状況なども評価に反映させていく。(平常点) 習熟度別に分けて指導していくが、到達度や習熟の状況を判断するため、共通の試験を行い、その状況を評価に反映させていく。(習得点) 平常点と習得点とで総合的に評価する。
----------	---

備考	年度当初の基礎学力検査を基に、下位10名前後をBクラスとし、残りをAクラスとする。ただし、学期ごとの成績により、科会でクラス替えが妥当と判断された場合は変更する。この計画はBクラスである。
----	--